

講演名 「子どもたちの日々の紡ぎ方」
耳を澄まして目を凝らして
十文字女子大学人間生活学部幼児教育学科・宮里暁美先生

『子どもたちのつづやきに耳をすませ目を凝らす生活』

子どもたちのふとしたつづやきや何気ない日常のスナップ写真からのお話は分かりやすく、子どもたちの純真な心や豊かな感性に触れることのできるおはなしでした。保育と言う仕事は本当に幸せな時間であり、保育者という仕事は本当に幸せな時間であり、保育者として感じる喜びの時でした。

また、こうした子どもの「言葉に出来ない気持ち」を写真やお話を通して保護者の方々に、子どもの気持ちを代弁する保育者の役割の大切さを再認識させて頂きました。専門性と、この仕事の醍醐味、楽しさを再確認させて頂いた、とても良い機会となりました。

子どもを育てる事は丹念に糸を紡いでいく行為に似ている...というお言葉がありました。日々、各園が、丹念に糸を紡いでいる様子が目に浮かびます。

これからも忙しく流れている日常の保育の中で、見逃してしまいうような細い糸をも見逃さずに一本一本の糸を大切に紡いで、その糸を織り上げそれぞれの園の素敵な布を丁寧に織り上げていきましよう。

役員会報告

書記 奈良昌人

役員会は九月三日(木)、十一月五日(木)、十二月二日(水)クリスマス礼拝後に開催されました。主なことを報告いたします。

◆夏期講習会を終えて

八月十八日(火)関東学院大学八景キャンパスにて三十三園、会友二人、一養成校、一八九人が参加し開催されました。開会礼拝では日本基督教団横須賀上町教会牧師、附属めぐみ幼稚園園長の宮澤恵樹先生よりメッセージをいただき、続く講演では、日本基督教団中野教会牧師、附属徳育幼稚園園長、前神奈川部会部会長の島田勝彦先生より「平和をつくる」のテーマでお話いただき戦後七十年にあつて一同平和への思いを強くしました。講演前に勤続十周年以上の十一人の先生方へ、永年勤続表彰が行われました。昼食後は日本基督教団東美教会牧師、シンガー・ソング・ライターの内内大蔵先生によるコンサートが行われ、歌とメッセージに心打たれる楽しい時間を過ごしました。

◆第二回講演会

十一月十八日(水)野毛山キリストの教会礼拝堂にて十文字学園女子大学人間生活学部幼児教育学科教授の宮里暁美先生をお招きし、「子どもたちの日々の

の紡ぎ方」耳をすまして目を凝らして」のテーマでお話しを伺い、幼児の今の声に耳を傾けることの大切さを改めて示され、自分の保育を振り返る良い機会となりました。一三一人が参加しました。

◆クリスマス礼拝

二月二日(水)清水ヶ丘教会にて、今年度で閉園となる大師新生幼稚園の園長、日本バプテスタ同盟大師新生教会牧師の益 巖先生よりクリスマスメッセージをいただき、その後、東洋英和女学院付属かえで幼稚園と野毛山幼稚園の皆さんのリードにより楽しいクリスマスソングの一刻を過ごし、恵みのうちにクリスマスMASの喜びを分かち合いました。各園からの献金二十七万五千円は、国境なき医師団、連盟の被災地支援、横浜訓盲学院にお渡ししました。

◆園長・設置者・主任研修会

二〇一六年一月十一日(月)に、戸塚ルテル教会附属幼稚園を会場に、心理学博士 掛札逸美先生より「保護者と安心」についてお話を伺い、良き学びと交わりの一日を過ごしました。

◆保育環境研修会と全体主任会

二〇一六年二月三日(水)午後三時～五時に保育環境研修会、午後五時～六時に全体主任会が、認定子ども園高座みどり幼稚園にて行なわれます。

◇発行日 2016年2月3日

◇編集者 神奈川部会 広報担当
宮の台幼稚園/佐口千春
認定こども園 捜真幼稚園/黒坂綾子

◇デザイン 永野絵理世

◇イラスト提供 百合丘めぐみ幼稚園



編集後記

2015年度もしめくりの時をむかえました。神様のお守りと祝福のうちに、充実した豊かな保育の日々を過ごされていることでしょう。今回のテーマは「お誕生日会」でした。持ち方は園によって様々ですが、一人ひとりを慈しむ愛にあふれたものであることは変わらないのだと嬉しくなりました。原稿をお寄せくださった全ての先生方から感謝申し上げます。

『平和』をつくる

聖句「平和を実現する人々は幸いである。
その人たちは、神の子と呼ばれる」
—マタイによる福音書5章9節



「子育て」

関東学院のびのびのば園

園長 河合輝一郎



ねこや犬をテーマにした作品を多く書いている児童文学作家の丘修三さんが、「橋のない川」の著者である住井すゑさんと生前、話をする機会があったそうです。

住井さんは「私は子育てという言葉が嫌いです。子どもは育てるものではなく、育つものなのです。大人ができる仕事は、子どもたちの成長の芽を摘まないように気をつけることぐらいです」と話したそうですが、丘さんはそれを聞いて、「孟子の「助長」という寓話を思い出したそうです。宋の国の農民が作物を早く収穫したくて、出てきた芽を「伸びる伸びる」と引つ張っていたら枯らしてしまい、元も子も失ったという

部会だより

キリスト教
保育連盟
神奈川部会

2016年2月3日
第129号

話です。成長を助けるつもりが、逆に成長を阻害してしまったという教訓を意味しています。

子どもの成長にかかわる時、私達は熱心であればあるほど結果を早く出したくて、「伸びる伸びる」と芽を引つ張ってしまいがちです。しかしそれは子どもの成長を逆に阻害してしまうことになり、子どもの内部には成長する力があり、それを信じて待つことが大切なのですが、その「待つ」ということがなかなかできない。「子育て」ではなく「子育て」なのだという住井さんの言葉はそれを端的に表現しています。

新約聖書マルコによる福音書4章に「神の国は次のようなものである。人が土に種を蒔いて、夜昼、寝起きしているうちに、種は芽を出して成長するが、どうしてそうなるのか、その人は知らない。土はひとりてに実を結ばせるのであり、まず茎、次に穂、そしてその穂には豊かな実ができる。」

丘さんも子どもを育てるのは植物を育てるのによく似ていると言います。草花や野菜を育てる能力は親も含めそれに携わる者の資質につながっている。つまり、子どもたちの成長に合わせる適切な時期に適量の水や肥料を与え、太陽の恵みを与えてやる。どれも適切な時期と分量があり、多すぎても少なすぎても枯れてしまう。子どもたちの内部に存在する育ちの芽を信じて、未来に希望を持って育つ

ように励まし、見守ることができると否かが求められると指摘しています。

「日本のフレイベル」と称された倉橋惣三が「教育はしばしば余りに多きを求める。葉を求め、花を求め、果実を求める。換言すれば結果を求める。しかも就学前は、未だ結果を求むべき時期ではない。結果は遠きにある。しかも自然に待つ。今はただひたすらに根の力を養うべきである。」と指摘しています。根の力とは「無限の元気であり、多面の興味であり、不断の試行力であり、しかして、年齢に相応せる適度の自己統制とである。皆これ知能の成果でなく、生活活力そのものである。生活活力は根の力である」。実に力強い言葉です。

私たちはつい、教育の目に見える成果を求めあまり、できるだけ早く、できるだけ多くを効果的に教え込み、期待される完成像へと子どもを育て上げようとしてしまいます。しかし促成栽培に似た教育がもたらすものは、表面的には綺麗な花や立派な実が育つこともありますが、それらは生命力に乏しくすぐにしおれてしまい、力強く成長はしないのです。私たちは、「根の力を養うべきである」という倉橋惣三の言葉をもう一度しっかりと読みしめたいものです。

テーマ

お誕生会



楽しい誕生会

愛の光こひつじ学園
副園長 藤波喜久子

こひつじ学園の誕生会は、園児と先生のほか、誕生月の子どものお家の方一名をお招きして祝っています。礼拝の後続いて、誕生会が始まります。ハッピーバースデーの歌を歌い、副園長が誕生月の子どもたちの頭を手を置いて祝福を祈ります。

その後、担任が手作りのフォトフレームつきのカードが贈られます。中には毎年違ったデザインになります。本人はもとより、お家の方々も楽しみに待っていてくれます。カードの中には、子どもが好きな場所で撮った写真、好きな食べ物や本、身長や体重の記録、手形、担任からのメッセージがあります。

誕生月の子どもは、写真と手形を

神奈川幼稚園のお誕生会

神奈川幼稚園
主任 阿部優子

私たちの神奈川幼稚園では、お誕生日は月の第一火曜日に行っています。しかし、4月は子どもがまだ落ち着いていないことと、8月は夏休み期間に当たるので、4月は5月と合同、そして8月は7月と合同になります。誕生会当日はお家の方

1名と一緒に登園し、その日一日子どもと一緒に過ごし、参観していただきます。まずは礼拝堂に全園児が集まり、合同礼拝を行った後、みんなでお誕生会を行います。一人一人の名前が読み上げられ、まわりの子どもたちに名前を大合唱でコールされながら、お家の方と一緒に前に出てきていただき、教師手作りの力作の、カードとペンダントがプレゼントされます。みんながそろった後は、誕生日以外の子どもたちから「うまれるまえから」の讃美歌をプレゼント。誕生日の子どもは、「たんじょうびはうれしいな」という歌を1フレーズごとに歌います。



会はシンプルにそれで終了となりますが、その間台所では母の会のお母さん、有志のお母さんによる、季節にちなんだお昼ご飯が着々と用意されています。普段はお弁当なのですが、この日はスペシャルランチとなります。そして、お帰りの時間には、再びクラスでお祝いです。みんなの前に改めて出てきて、お祝いした後、質問コーナーをひらきます。「好きな果物はなんですか」「好きなきのこはなんですか」質問は、多岐にわたりますが、ひとつひとつ質問を受ける方も真剣に考える姿がなんともかわいいのです。

うれしいね、お誕生日会

伊勢原幼稚園
教諭 長塚真由美

「おめでとう！」お誕生日会の日の朝は、幼稚園のあちらこちらでお祝いの嬉しい声が聞こえてきます。少し照れながら、「ありがとう。」と答える嬉しそうな笑顔と友達同士の言葉と心のやりとりに周囲が、そっと、温かい雰囲気に含まれるようです。

私たちの幼稚園では、月に一度、その月、その季節の豊かな恵みの中でお誕生日を迎える子どもたちをお祝いし、お誕生日会を行います。ひとりずつ名前を呼ばれて、小さなステージに用意された席に座り、誕生日カードを受け取り、インタビュに答えます。大きくなったら何になりたい？というインタビュにみんな瞳を輝かせてお話ししてくれます。

また、お誕生日会には、お家の方をお招きして一緒にひとときを過ごします。子どもたちの後に、お子さんの大好きな所を尋ねると、日常生活のエピソードを交えたり、生



まれてからの成長を振り返りながら、お話ししてくださり、ひとりひとりが家族のあふれる愛の中にあることや神さまから祝福されて成長していることを感じます。

お誕生日会の後は、クラスの部屋で、お家の方も一緒におやつの間を過ごし、小さなケーキやゼリーをいただきながら、和やかに喜びを分かち合います。年長組では、子どもの名前の由来や生まれた日のエピソードをお家の方にお話ししていただきます。お家の方の思いや願い、赤ちゃんの頃の様子を聞くことを通して、お互いを大切に思う心が育まれるようなひとときです。

ひとりひとり、神様からいただいた賜物を大切にして心も体も、すくすく成長することを願っています。

誕生会の持ち方

YMCAとつか保育園
園長 齋藤信

神様はひとり一人に命を与えてくださり、かけがえのない存在として育み、愛してくださっている。そのことを共に喜びあう誕生会を園ではとても大切にしています。

誕生会には0歳児から5歳児までの6クラス、一時保育の子どもたちに加えて、地域の親子にもご参加いただいています。140名以上の子どもたちと保育者で、大変にぎやかです。会の流れは、礼拝、祝会の2部構成でおこなっています。

最初に司会者その月に誕生日を迎える子の名前を呼んで、呼ばれた子は元気に返事をして前方の誕生席にすわります。礼拝は前奏が続いて、こどもさんびか「うまれるまえから」を賛美し、園長のおはなし、お祈り、そしてもう一曲賛美し、後奏で終わります。

礼拝の後、ひとり一人の名前を呼んで、保育者が心を込めて作った誕生カードを渡します。「お誕生日お

めどう！」と言って握手をするのですが、その時の子どもの表情はとっても嬉しそうです。そして全員でハッピーバースデーを歌って祝福します。

第2部の祝会は、毎月子どもたちや職員が楽しい出し物をプレゼントしてくれれます。誕生会でどんな歌や劇を披露するかは、その時までのお楽しみなので、担当の子どもたちは、小道具を製作したり練習をしながら、みんなを喜ばせてあげようとわくわくしています。先日は3歳児クラスの子どもたちが「11ぴきのねこ」の歌と劇を見せてくれました。本番では見ている子どもたちも一緒に手をたたいたり、飛び跳ねたりして楽しんでいきます。

このようにみんなで祝いする誕生会は、祝福された幸せな時です。これからも大切に守っていききたいと思えます。

